第二節　議事經過ノ概要

議事經過概要

陸軍々備制限ノ問題ニ關シテハ十二月二十一日ノ第三回總會議ニ於テ佛國首席全權「ブリアン」氏ハ戰後ニ於ケル歐洲政局ニ付テ述ヘ困難ナル佛國ノ立場ヲ詳細ニ說明シ佛國政府ニ於テハ其ノ內國兵ノ關スル限リ法律上三年兵役制ノ嚴存スルニモ拘ラス政府ノ責任ヲ以テ二年兵役制ヲ斷行シ更ニ進ンテ近ク一年兵役制ノ實施ヲサヘ敢行セントスル意圖ナル旨ヲ述ヘ獨逸ノ脅威ノ下ニアル佛國ニ對シ是以上ノ制限ヲ求ムルハ不能ヲ强フルモノナリト說キ斷然タル態度ヲ以テ陸軍々備ノ制限ニ反對シ次ニ加藤全權ハ陸軍ノ軍備ヲ各國ノ安全及各國領土內ノ秩序維持ニ必要ナル限度ニ止メ以テ人民ノ負擔ヲ輕減セントスル主張ハ日本ノ衷心贊意ヲ表スル所ナルモ一國陸軍々備ノ規模ハ固ト其國ノ地理的地位及其他ノ事情ニ依リ決セラルヘキモノナルニ此等ノ基礎的要件タルヤ本來頗ル錯綜複雜セルモノナルヲ以テ之ヲ比較スルコト容易ナラス從テ陸軍ニ關シテハ海軍ニ於ケルカ加ク其一般的制限案ヲ考案スルコト容易ナラサル事情アリ乍去日本カ極東ノ事態ニ依リ純然タル國防上ノ目的ノ爲メ絕對ニ必要トスル軍備以上ノ陸軍々備ヲ維持スルノ意圖ヲ毫末モ抱藏セサルコトノミハ之ヲ承知セラレ度シト明言セリ本問題ハ更ニ十一月二十三日第二回總委員會及同日午後ノ首席全權ノミノ會合タル第二回議題及議事進行委員會ニ於テ討論シ英伊兩國代表ハ切リニ何等カノ形式ニ於テ一般的協定ヲ遂クルノ必要ヲ力說シタルモ佛國側ノ態度强硬ニシテ陸軍々備ニ關シテハ遂ニ何等ノ協定ヲモ見ルニ至ラス唯戰時法規、航空、毒瓦斯ノ三問題ニ關シ專門分科會ヲ設置セルノミニ終レリ（第二篇參照）

第二章　第三回總會議ニ於ケル陸軍軍備ニ關スル各國全權ノ聲明

第三回總會議

千九百二十一年十一月二十一日ノ第三回總會議（Plenary Session）ニ於テ始メテ陸軍軍備制限問題論セラレタルカ其際ニ於ケル各國全權ノ演述セル要領左ノ如シ

一、米國國務卿「ヒューズ」（Hughes）氏（議長）

「ヒューズ」

陸軍軍備問題ハ米國ニ於テハ既ニ解決セラレタルモノト謂フヘシ蓋シ米國ハ其ノ正規兵ヲ最小限度ニ止ムルノ傳統的政策ニ從ヒ休戰ト共ニ四百二十萬ノ軍隊ノ復員ヲ開始シ年餘ニシテ正規兵十六萬以下ニ是ヲ減縮スルコトヲ得タレハナリ

然レトモ米國以外ノ諸國ニ於テハ其ノ陸軍ヲ減縮スルニ特殊ノ困難アルコト卽チ或ハ危惧ノ念ヨリ或ハ國家ノ安全ニ對スル根本條件ノ點ヨリ遽ニ之ヲ實行シ得サルハ吾人ノ良ク知ル所ナリ

玆ニ此等ノ諸國ヲシテ各其ノ特殊ノ事情ヲ本會議及全世界ニ向ツテ披瀝セシムルハ機宜ヲ得タルモノナルヘシ

二、佛國首相「ブリアン」氏（Briand）

「ブリアン」

諸君余ハ全世界ノ視聽ノ集レル此演壇ニ立チテ特種ノ感無キヲ得ス余ハ諸君カ此公開ノ席上ニ於テ先ツ佛國代表タル余ニ對シ發言ヲ許サレタルコトニ付キ謝意ヲ表スルト同時ニ余ハ此期ヲ利用シ世界ノ平和確立ニ關シテ最熱心ナルモノアル佛國ノ眞情ヲ諸君及全世界ノ前ニ披瀝セント欲ス

若シ此際吾人ハ凡テヲ犧牲トシ吾人ハ凡テノ安全ヲ保障サレ而シテ凡テノ軍備ヲ撤シテ尙確定的ナル平和ニ安スヘシト稱スルヲ得ハ諸君之レ又余ニトリ最モ欣幸トスヘキモノナリト雖モ然レトモ不幸ニシテソハ不可能ナリ